

花巻ファーマー

ふるさとの果実でお酒を。もんのすけ農園の挑戦



あつのり
菅原 徳悟 さん
(南万丁目 38歳)

「やりたくて畑があるなら、まず植える」。友人のワインにまつわる話の中で出た一言で、菅原徳悟さんは農業の道にかじを切りました。「自分の生まれ育った土地で栽培した果実を使ってお酒を作りたい」と徳悟さんは平成24年、畑にブドウの苗木30本を植樹。28年には自宅近くのリンゴ畑を借り、リンゴ栽培を始めました。

翌年、勤めていた福祉の仕事を辞め専業農家に。農園名は菅原家の屋号を拝借し「もんのすけ農園」としました。

「屋号を使ったのは大切な家族の歴史と共に、これからこの場所で暮らしていきたいという思いを込めたかったから」と徳悟さん。現在はリンゴを中心に醸造用ブドウな



もんのすけ農園のシードル。アルコール度数も5%と飲みやすい

ど58℃を栽培しています。30年収穫分から念願のお酒造りに着手。青森県内のシードル工房に委託し、自家栽培リンゴ「サンふじ」を使ったシードルが誕生しました。

サンふじの甘味が生かされ、果実味が残る味わいが特徴のこのシードル。予想外の反響があり、製造した350本は3カ月で売り切れしました。「将来的には自分のワイナリーを設立したい」と、徳悟さんは目を輝かせていました。

広げよう
活動の輪

市民活動団体紹介

宮沢賢治の精神を継承した
学びの場を目指して

NPO法人
花巻寺町文化村協議会

花巻寺町文化村協議会は、宮沢賢治の精神を大切にし、人材育成と共生のまちづくりを目的に活動する団体です。同団体は、文化・芸術の振興を図る活動として、囲碁、コーラス、謡曲、茶道、オカリナなど、幅広い分野にわたって教室を開催。会員の皆さんに学びと交流の場を提供しています。

会員は、地域住民を中心に約100人。「活動拠点の妙圓寺(愛宕町)は、穏やかな気持ちで学ぶことができる」と会員から評判が良いです」と理事長の林正文さんは話します。

また、地域の皆さんと一緒に境内の鐘を打つイベント「平和の鐘」を大みそかの夜に実施。平和への願いが込められた鐘の音が響く、毎年恒例の行事となっています。



① 会員が持ち寄ってユニセフバザーを開催② 観世流謡曲の様子
③ 花巻寺町文化村協議会の会員の皆さん



【問い合わせ】
NPO法人
花巻寺町文化村協議会
理事長 林 正文さん
(☎23-5439)

市民生活コーナー

注文していない商品が届く
「送りつけ商法」に注意!

■どんな相談があるの?

○代引きで健康食品が届いた。宛名には名字しか書かれていなかったが、家族の誰かが注文したと思い、代金を支払って受け取った。その後、家族に確認したが、誰も注文していない商品だった。返金してほしい

○一人暮らしの母の家にカニが届いた。話を聞くと、

■注意することは?

○注文していない商品や購入を断った商品を送り付けてくる販売方法を「送りつけ商法」と言います。購入を承諾していない場合、契約は成立していないので代金

■困ったときは?

○新館市民生活総合相談センター(☎24-2111)内線259へ

○家族間で「誰が注文したか

を払う必要はありませんか? 今なら特別価格にする」と電話があり、断ったが数日後、「カニを送ったので代金を支払うように」と言われたとのことだった。

○家族間で「誰が注文したか分からない荷物は受け取らない」などのルールを決めておきましょう

○家族間で「誰が注文したか

を払う必要はありませんか? 今なら特別価格にする」と電話があり、断ったが数日後、「カニを送ったので代金を支払うように」と言われたとのことだった。

健康コラム

大気汚染は家庭内で起きている?!
たばこの煙は身近なPM2.5問題!

たばこの煙がPM2.5ということをご存じですか? 化学燃料や草木が燃えることで発生するPM2.5は、小さい粒子で肺の奥深くまで入るため、肺がんやぜんそくなどの原因になります。

海外から飛来するPM2.5が話題になることがありますが、自由にたばこを吸える店や自動車の中のPM2.5は、外出の注意喚起レベルを優に超える濃度になります。

また、自宅でたばこを吸う場合も例外ではありません。自分の健康はもちろん、家族をPM2.5から守るために、普段の自宅での対策を振り返ってみませんか。

●次のような受動喫煙対策では不十分



【問い合わせ】健康づくり課 (☎ 23-3121)

いいところ発見!
地域おこし協力隊

26歳、フドウ農家になる
- フドウ栽培担当 佐藤 真衣子 -

今年の活動を振り返って一番大きな出来事といえば、大迫に移住して半年が経ったある日、おそらく大迫で最も小さい規模ながらも正式に農家になったということでしょう。

まだまだ知識も技術も浅く、何もかも手探り状態の中、ブドウは容赦なく育っていきま。植物の生命力に感動しつつも「周りはプロが作る立派なブドウばかりだから、簡単には売れないのでは?」などと言われて悔しい気持ちになることが多かったです。

私は少し絵を描けるので、収穫したブドウにオリジナルのラベルを貼って産直に並べてみました。出来栄



で劣るならパッケージで勝負することにしたのです…。これがなかなか評判が良かったようで、ブドウは毎日完売御礼でした。この場をお借りして、購入してくださった皆さんに感謝申し上げます。

家族や友達、畑の園主さん、地域の農家さんなどなど、たくさんの人たちに手伝っていただきながらなんとか今年1年を過ごせそうです。来年は一体どうなるのか分かりません。でも、今年よりはもっと自信を持ってブドウを作れるようになりたいと思います。